

# 『読書人カレッジ』開催！

～ある翻訳者が本当にやりたいことに気づくまでに出会った、何冊かの本について～

1月12日（金）16時30分～18時00分

@大学図書館 B2

※Zoom参加も可能です。URLは後日e-passでお知らせします。



## 講師 小山内 園子先生 (翻訳家)

1969年生まれ。東北大学教育学部卒業。NHK報道局ディレクターを経て、延世大学などで韓国語を学ぶ。

訳書に、カン・ファギル『大仏ホテルの幽霊』（白水社）、『大丈夫な人』（白水社）、『別の人』（エトセトラブックス）、キム・ホンビ『多情所感』（白水社）、『女の答えはピッチにある——女子サッカーが私に教えてくれたこと』（白水社）でサッカー本大賞受賞、チョン・ソンテ『遠足』（クオン）、ク・ビョンモ『破果』（岩波書店）、『四隣人の食卓』（書肆侃侃房）、など。

共訳書に、イ・ミンギョン『私たちにはことばが必要だ』『失われた賃金を求めて』『脱コルセット:到来した想像』（タバブックス）、チョ・ナムジュ『彼女の名前は』（筑摩書房）、『私たちが記したもの』（筑摩書房）など。

ドキュメンタリー制作、女性福祉の現場、韓日翻訳。なかなか<やりたいこと>がわからずに試行錯誤を繰り返してばかりだった日々、進む先をそっと照らしてくれた何冊かの本についてお話します。18歳の理想だった「作家の妻」のエッセイ、10年ごとに読み返していたベストセラー小説、韓国のDVシェルターで被害者に教えられたフェミニズム文学などなど。もしかしたら1冊くらいは、あなたの人生の<参照例>になる本があるかもしれませんし、本と出会う喜びを実感していただけるかもしれません。お待ちしております。



「読書人カレッジ」で「本を読むこと」「文章を書くこと」、  
そして「表現をすること」の楽しさ、奥深さを再発見！



本は小さな「どこでもドア」です。新たな本を開くたびに、新たな世界が開かれます。すぐれた小説がそうであるように、その世界をわたしたちは——いま・ここにいながらも、ひととりの間——「生きる」ことができます。そうしてわたしたちは、ひとの心や想いについて、過去や異郷の出来事と暮らしについて、身のまわりで起きていることやこれから起きるかもしれないことについて、深く知ることができるようになります。

もっとも、それはたんに知識が増えるということではありません。なぜなら本を読み終える——「どこでもドア」の向こうから帰ってくる——ごとに、わたしたちは人間を、世界を、新たな目で見ることができるようになっているからであり、またそれゆえに、一人ひとりが新たな「わたし」に——そうとは気づかないうちに——変わってもいるからです。

その意味で、読書とは本来、愉悦に満ちた経験のはずなのです。また「大学での学び」にも読書は欠かせません。しかしその理由は、課題やレポートのために必要だから、というだけではありません。「大学での学び」の目的が、知識だけではなく、すぐれた知性と豊かな感性も身につけることにあるから——言い換えれば、「思考する力」と「他者を想う力」を養い、そうして「自分の人生を自分で切り拓いていく力」を身につけることにあるから——なのです。

学サポ×図書館の企画『読書人カレッジ』は、皆さんがそうした知性と感性、力を身につけていくための手がかりを提供します。この機会に「本を読むこと」の、そして「文章を書くこと」「表現をすること」の本来の意味と楽しさに、あらためて目を向けてみませんか。皆さんの参加をお待ちしています。

学サポ×図書館 スタッフ一同

